

《セミナー》

Tea in Thailand: Opportunity and Challenge

日本茶業の現状と今後の方向および海外茶産地のお茶事情

科学分析支援センター 藤原 隆司

開催日時: 2019年1月15日(火) 10:00~11:30

出席者: 26名

科学分析支援センター主催の学術セミナーを2019年1月15日(火)にシアター教室にて実施した。

今回はタイ国メーファールアン大学 茶業研究所の Piyaporn Chueamchaitrakun 博士と公益社団法人静岡県茶業会議所 月刊「茶」編集長の中小路和義氏をお迎えして、それぞれお二人に表題の演題でご講演をいただき、約30名の参加者があった。

Chueamchaitrakun 博士は現在メーファールアン大学 茶業研究所(Tea Institute, Mae Fah Luang University)の所長を務められており、タイ国の茶業を国際的に広めるため積極的に海外活動を行っている。Chueamchaitrakun 博士は本学理学部基礎化学科の長谷川登志夫准教授と、タイ緑茶の香気特性などで共同研究もされ何度か来日されており、著者も今回お会いするのは二度目であった。本セミナーでは、タイ国における茶葉の生産やその活用方法、将来における展開について、Chueamchaitrakun 博士のご研究、活動成果をもとに講演をしていただいた。

中小路和義氏は公益社団法人静岡県茶業会議所が発行する『月刊「茶」』の編集長を務められている。『月刊「茶」』は静岡県茶業会議所が発行する茶の専門誌であり、刊行70年を越える雑誌で、生産者や茶商、消費者などの読者から長年にわたって愛読されている雑誌である。中小路氏には日本の茶業の現状、消費の動向だけでなく、海外の様々な茶産地を訪れた際の様子や、海外における茶業の情報をグローバルな視点から講演していただいた。両氏のお茶に向けられた情熱を感じながら、貴重な時間を過ごすことができた。



Chueamchaitrakun 博士



中小路和義氏